



素敵な本に出会う きっかけづくりを



図書室利用状況

公民館図書室を廊下南側に移動し明るく本が借りやすい環境にしました。図書の検索は、町のホームページでもできます。

平成 15 年度分

| | 公民館 | 西コミ | 合計 |
|-----------|--------|--------|--------|
| 蔵書数(冊) | 15,644 | 12,416 | 28,060 |
| 一般図書 | 8,587 | 7,563 | 16,150 |
| 児童図書 | 7,057 | 4,853 | 11,910 |
| 年間利用者数(人) | 8,778 | 10,873 | 19,651 |
| 一般 | 4,229 | 5,585 | 9,814 |
| 児童 | 4,549 | 5,288 | 9,837 |
| 年間貸出冊数(冊) | 17,039 | 21,839 | 38,878 |
| 一般 | 8,224 | 10,789 | 19,013 |
| 児童 | 8,815 | 11,050 | 19,865 |

近年、「本の読み聞かせ」という言葉をよく耳にします。みなさんもどこかで聞いた覚えがないですか。子供の本離れが懸念される現在、学校でも本の読み聞かせや10分間読書などが盛んに行われています。

昔から、お母さんが子供に絵本を読む、紙芝居を見る、朗読を聞くなど「読み聞かせ」の分野はたくさんあり、また「本を読む」ということも多くの人の生活に溶け込んでいました。

でも、メディアやインターネットが普及し、日々忙しく過ごしていると、子供の目線で絵本や本を読み聞かすこと、子供が本を読むことは成長する過程でもとても大切なこととは分かっていても、ついつい後回しにしていますか。

町には公民館と西当別コミュニティセンター内に図書室があり、町内の方は簡単に本を借りることができます。また、子供たちが本に触れる機会を与えてくれる活動を行っている団体もありますのでご紹介します。



絵本の読み聞かせ

▽代表 高島木綿子さん

第3土曜に西コミセンでおはなし会（読み聞かせ・パネルシアター・工作など）を開催。西当小、ふとみ保育所での読み聞かせ、10カ月児健診時のブックスタートで、読み聞かせの大切さを伝えている。「顔見知りになった子供たちが町で声をかけてくれることもありパワーの源です」と、子供たちの元気に支えられて頑張っている。



館内で本を楽しむ子供たち

▽開館 毎週水曜13時～16時
▽蔵書数 2、500冊
▽代表 堀江三千代さん

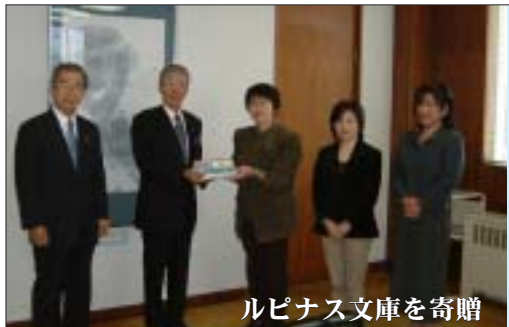
「子供たちが自由な気持ちで読んでいて楽しくなる本を選んでいきます。来館した子にあった本が読めるようにアドバイスもします」と話す代表の堀江さんの周りには子供たちがたくさん。当小の「サタデーキッズスクール」の一環で子供の居場所づくりにも協賛。



絵本に親しむ講演会

▽代表 三村安希子さん

毎週水曜に西コミセンで読み聞かせ・手遊び・季節の行事イベントをお母さん方がアイデアを出し合い手作りで開催している。7月15日には、サークル主催の「第18回絵本に親しむ講演会」（年1回）に赤ちゃんを抱いたお母さんが大勢集まり、絵本作家の樋口通子さんのテンポのいい子育てや絵本の話に耳を傾けていた。



ルピナス文庫を寄贈

▽代表 津崎里美さん

図書環境を考え、良くしていこうと活動している。多くの方にも関心を持ってもらおうと「学校図書」についての講演会、ワークショップなど開催。フリーマーケットの益金で本を購入、ルピナス文庫として毎年町に寄付しているほか、定期的に会報誌を発行して図書室に配置するなど図書環境に関心をもってもらおう活動を続けている。



町長の日記

7月22日(木)



sign

今日は当別町の景観委員会が大きな木のコンテストの結果を発表した。

青山中央に「見晴しの松」と云われて樹齢1300年で幹回りが6m余りの姿も立派なオンコの木があり、個人の所有だが道の指定を受けて保護されているものがあるが、実は二番川の道有林に樹齢約600年、幹回りが5m余りの、日本一と公表されているキハダの木があり、この町にはすばらしい木があると云う事で当別町景観委員会が町民が自分の敷地で長年育ててきた木で太くて大きなものを探して認定したものである。

高岡の江川さんのポプラは幹回り4m85cmでポプラとしては当別で一番太いと認定された。樺戸の遊佐さんのイタヤカエデの木は3m18cmでイタヤカエデとしては太さも大きさも一番となったので、今回はこの2本の木を当別町で認定証を差し上げた。

景観委員会はこの後秋までに樹種別にもっと沢山の「当別一」の木を認定したいと云うことなので面白くなりそうだ。

今後は大きさだけでなく、いわれのある木や記念樹などを探して公表するといろいろな歴史や物語があるような気がする。

毎晩、犬の散歩路にしているスウェーデン大通りの中学校のところに珍しいジャパニーズライラック科のハシドイの木があり、白い花がこぼれんばかりに咲いてライラックよりも薄い上品な香りが漂う。車では感じられないが、歩く人には心地良い香りで夜などまるで原産地のヨーロッパに居るかのような感じになる。誰がいつ頃植えたのか私にはわからないが、夏の夜の散歩の楽しみの一つである。

この町も木を大切に思う人がだんだん増えてきたし、何十年後かにはスウェーデンのレクサンド市のように大きな森で包まれた町になれるのではなかろうか。

当別町長 泉 幸俊 考

「大きな木」を 認定しました

当別町には長年の風雪に耐えて大きく成長した立派な木が多く見られますが、私たちが住んでいる周りにも昔から人々が守り育ててきた大きな木があることは意外に知られていません。この貴重な財産である大樹を大切に保存することで美しく緑豊かなまちづくりが推進され、緑を大切にする意識啓発へとつながることから、このコンテストを企画いたしました。皆さんからお寄せいただいた住宅敷地内にある大きな木の中から、美しい景観委員会審査を行い、当別町の「大きな木」を認定しました。

所有者 江川秀夫さん(高岡)

樹木 ポプラ 幹回り 4m85cm

調査した木の中では、ずば抜けて太く樹齢約120年～130年と聞きました。

また、大きな木という視点では明らかにトップでした。



所有者 遊佐ヒロ子さん(樺戸町)

樹木 イタヤカエデ 幹回り 3m18cm

ポプラほど生長が早くないが、健全でかつ樹容が美観上特に優れています。

また、正確な樹齢調査は困難ですが、少なくとも200年以上と推察されます。



たくさんのご応募ありがとうございました。各樹種ごとの大きな木も探していますので、情報がありましたらお寄せください。

◆まちづくり推進課(☎23-3073・FAX25-5555)